

会派先進地視察報告書

- ◇ 1月27日（月）「京都府綾部市」
空き家活用定住促進施策について
- ◇ 1月28日（火）「兵庫県豊岡市」
地域主体公共交通「チクタク」について

2020年3月

知多市議会「市民クラブ」

市民クラブ先進地視察報告書

日 時	令和2年1月27日（月）午後1時から午後3時まで
視 察 先	京都府綾部市
視 察 項 目	空き家活用定住促進施策について
視 察 者	市民クラブ（夏目 豊、古俣泰浩、林 正則、藤井貴範、藤沢 巖、中山貴弘）
視 察 内 容	<p>綾部市は、昭和25年の市制施行後、合併を繰り返したものの毎年人口減少が進み、当時のピーク人口5万4,055人から現在では推計人口3万2,262人となっている。さらには高齢化率も37.4パーセントで、全国でも有数の少子高齢化の進んだ環境にある。こうした中、第3次総合計画までは、人口を増加させる方針であったが、第5次総合計画では、2020年の推計人口の3万3,000人を上回る人口の確保を施策の一丁目一番地として、定住促進を計画している。</p> <p>定住促進のための施策として、綾部市では定住相談ワンストップ窓口を開設している。同窓口は、空き家バンクの運営のほか、地域の一員として生活する定住者を対象とし、自治会への加入、地域の活動の説明、挨拶回り等に関する相談を受けている。</p> <p>また、空き家の流動化を促進させる施策として、空き家流動化報償金給付制度（空き家の提供者へ10万円の謝礼を贈呈）、空き家管理事業者紹介制度（空き家の管理事業者を紹介し、空き家の清掃、庭の手入れ等を支援）等を展開している。</p> <p>さらに、定住者を誘導する施策として、市が空き家を10年間無償で借り上げ、トイレの水洗化、キッチン整備等の改修を行い、市営住宅（定住支援住宅）の扱いで定住希望者へ賃貸するといった事業も行っている。</p> <p>これらの施策により定住に至った人数の実績は、平成20年～30年で合計222世帯543人となっており、全国3位の結果だった。定住者の年齢層は、30～39歳の子育て世代が一番多く、29.1パーセントという結果だった。</p> <p>今後の展開としては、「住んでよかった」、さらに「住みたくなるまち」の実現に向け、「医（子育て支援医療制度の充実等）」、「職（高速道路網の優位性を活かした物流団地用地の確保等）」、「住（官民協働による住宅不足の解消）」等の施策を実施していく。また、12地域を「小さな拠点」として位置付けた地域振興（クラスター構想）を推進する。</p>
所 感	<p>綾部市では、移住希望者に対してワンストップ窓口を開設し、手厚い支援体制をつくっている。中でも、定住相談の一環で、市職員が自治会への加入説明を行ったり、移住希望者の地域への挨拶回りに同行したりすることで成果を積み上げているという事例からは、地道な活動に継続して取り組むことの重要性を改めて感じた。</p> <p>今回の視察で、過疎化地域の対策として、空き家の流動化を目的とした定住促進施策の実態を確認することができた。また、移住したくなる、住みたくなるまちのつくり方について、新たな知識をじかに学ぶことができた。</p> <p>本市においても、空家等対策計画の策定が進められており、大変参考となる視察であった。</p>

市民クラブ先進地視察報告書

日 時	令和2年1月28日(火) 午前10時から正午まで
視 察 先	兵庫県豊岡市
視 察 項 目	地域主体公共交通「チクタク」について
視 察 者	市民クラブ(夏目 豊、古俣泰浩、林 正則、藤井貴範、藤沢 巖、中山貴弘)
視 察 内 容	<p>豊岡市では、地域公共交通の一環として市営バス「イナカー」を運行しているが、需要基準(1人/便)に満たない路線を廃止しようとしたところ、その対象となった地域から移動手段確保の要望があった。そこで、地域主体公共交通「チクタク」の導入を決定し、平成23年4月から本格的に運行されることとなった。</p> <p>チクタクは、地元関係者で組織する運営協議会が主体となって、豊岡市の支援を受けながら運行する公共交通である。無償貸与された市公用車を使用し、利用予約受付等の事務、車両の運行などを運営協議会が実施している。ダイヤ、停留所等を地域自らが決定するとともに、運転手、事務員等も地域で確保し、経費(平成31年度予算ベースで1協議会当たり約1,300千円/年(①委託料:約900千円 ②燃料費:約100千円 ③保険料等:約300千円))を市が支援している。現在は、「チクタク奥山」「チクタクひぼこ」「チクタク資母」「チクタク合橋」の4地域で運行している。</p> <p>チクタクの導入により、市営バスに比べて利用者数が大幅に増加するとともに、市負担額も削減できている。利用者増加の要因としては、実利用者のニーズに対応した細かい行先設定や、ドアツードアに近いサービスを実施していることなどが考えられる。</p> <p>現状の課題として、利用者減に伴うダイヤ及び路線の抜本的な見直しが必要であることや、深刻な運転手不足が挙げられる。また、有識者と地域が参画した、地域ごとの公共交通の検討会の開催が必要とのことであった。</p>
所 感	<p>豊岡市は、公共交通を「社会資本」と捉え、通院や買物などの日常生活に必要な公共交通サービスを確保するという強い信念によってチクタクの導入に至った。この導入までの市と地域との取組のプロセスは見習うべきところが多く、特に「交通弱者を地域で守る」と決断した豊岡市の強いリーダーシップを感じた。</p> <p>チクタクにおいては、車両を準備して地域に丸投げするのではなく、万が一のトラブルが起きたときの責任区分の明確化がされており、運転手となる方にとっても不安な要素が消えるのではないかと感じた。</p> <p>本市においても、新たな地域公共交通の導入に際しては、その地域の特性や需要等をしっかりと把握した上で、まずは、公共交通確保の基本方針を的確に定め、計画を策定することが重要である。また、地域主体公共交通の運行組織の管理を地域が直営で実施していることや、地域の運転手確保とそれに対する課題、福祉施策との完全分離による運行など、大変参考となった。</p>